

横浜市立幸ヶ谷小学校にてハッピー&スマイル・デーへ参加



自衛隊の仕事について説明を聞く児童たち



手本を見ながらパラシュートコードの編み方を学ぶ児童たち

令和6年2月17日(土)、横浜市立幸ヶ谷小学校(横浜市神奈川区)において、地域や企業、NPOなどから様々な専門家を講師として招いてブースを設け、普段の授業とは少し違う体験を通じて児童の新たな興味や関心を引き出す体験学習イベント「ハッピー&スマイル・デー」が開催され、昨年に引き続き2回目の参加となった自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所(所長 鹿内1陸尉)も自衛隊ブースを設置した。

自衛隊ブースでの体験学習に参加してくれたのは5年生と6年生の高学年の児童たちで、6年生の中には、昨年に続いて参加してくれた児童もいた。

体験学習では、初めに自衛隊の仕事や災害派遣についての説明を行い、その後、パラシュートコード編みの体験を実施した。

児童たちは、「航空自衛官は、みんなパイロットなんですか?」、「将来、自衛官になるためにやっておいた方が良いことはありませんか?」など、気になったことを思い思いに質問したり、パラシュートコード編みでは、児童同士で編み方を教え合ったりして、楽しみながら体験学習に取り組んでいる様子で、多くの児童が自衛隊に興味を持ってくれたと感じた。

横浜出張所は、「今後も積極的に地域の行事に参加し、自衛隊に対する理解を深めていきたい」としている。

親子で楽しむ防災フェスで自衛隊PR



自衛隊神奈川地方協力本部川崎地区隊(地区隊長 宮城英明2陸尉)は、令和6年3月10日(日)に川崎競馬場(川崎市)で行われた「親子で楽しむ防災フェス遊ぼう祭」に参加し、車両の展示や自衛隊ブースの出展を実施した。

会場では、中央競馬の出走馬のアナウンスが流れ、大きなモニターに競馬中継が映し出される中、24人の隊員が仮眠できるという航空自衛隊の「待機車1号」が大きな存在感を示していた。

また、芝生広場の自衛隊ブースでは、天幕の設営展示や非常用食料の展示などにたくさんの方が足を運んでくれ、約15Kgの背囊背負い体験で力持ちのお父さんが「うおお」と声を上げて背負って盛り上がり上がっていたり、航空自衛隊の輸送機「C-2」のペーパークラフト作成体験に根気強く取り組んでいる親子がいたり、南極の水を触って「どうやって運んだの?」、「塩味?」などと興味津々に質問する子供がいたりするなど、会場のおちろちろで自衛隊を大いにPRすることができた1日となった。

川崎地区隊は「今回のイベントで自衛隊の様々なことを知っていただけたと思う。今後も、災害対応を担う自衛隊への理解と関心を高めていけるよう活動していきたい」としている。

横浜総合高等学校自衛隊制度説明会

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所(所長 狩野圭2等陸尉)は、令和6年3月18日(月)、横浜総合高等学校(横浜市南区)において、昨年に引き続き「自衛隊制度説明会」(横浜総合高等学校説明会)を実施しました。

興味を持って参加してくれた生徒に対し、募集案内所広報官による陸海空自衛隊の採用試験や職種・職域についての概要説明をするとともに、質疑応答の時間を設けました。参加した生徒の中からは、「寮生活はどんな感じですか?」、「外出はできるのですか?」、「職種はどう決まりますか?」などの質問が多数あり、募集案内所広報官が体験談を踏まえて丁寧に回答をしました。自衛隊に対する関心を引き出すことができ、普段の生活の様子や職域の広さなどについて、自衛隊の魅力をアピールできたと思います。

中央募集案内所は、「横浜総合高等学校さんには毎年お世話になっており、ご理解ご協力にとても感謝をしています。今後もより一層多くの学校と連携を密にして、より良い募集環境の構築に尽力する」としています。